

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A全農ふくれん 担い手支援課)
(公印省略)

営農情報 2

近年、県内では土壌の物理性・化学性の低下による排水不良や乾燥害の発生による収量低下の問題が深刻化しています。今こそ、ほ場の土壌を見直し、未来へつなぐ「土づくり」を行いましょう！

県内のほ場の状況と「土づくり」の対策のポイント

現状

- 腐植含量が少なく、容積重が重く、硬い土が多い。
- pHが低く、カリ、苦土が少ない土が多い。

対策

- **有機物（堆肥・わら）の施用**
→ 腐植含量が増え、やわらかい土になる。
→ 窒素、リン酸、カリの補給になる。
- **土壌改良資材（炭酸苦土石灰など）の施用**
→ 石灰質資材の投入により、pHが改善される。

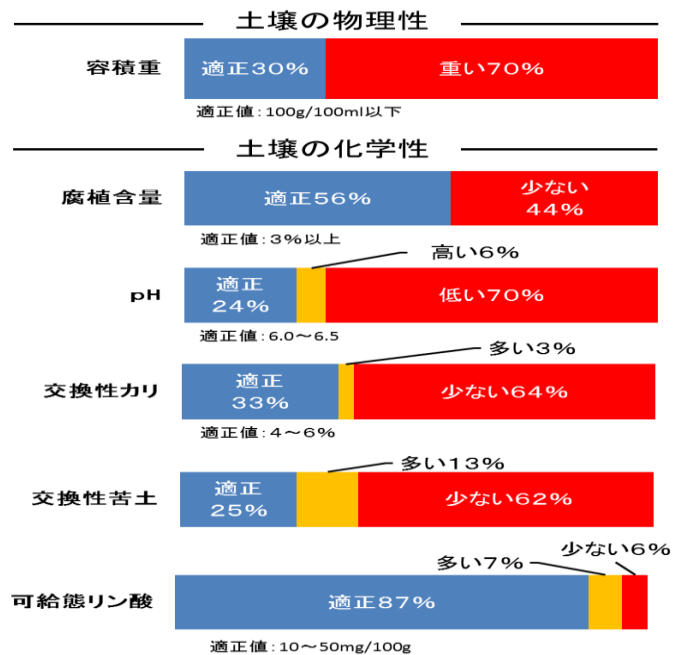


図1 県内麦及び大豆ほ場の土壌分析結果 (平成29年調査、調査点数:215点)
※ 容積重については平成24~25年調査、調査点数216点

わらは焼却せずにすき込みましょう！

■わらすき込みの効果

- ① 稲・麦わらすき込みにより、腐植の低下を緩和し、地力維持できる。
- ② 土壌が軟らかくなるため、根の伸長を促し、耕うん作業が容易になる。
- ③ 土壌の養分保持力が高まり、肥料の削減が期待できる。

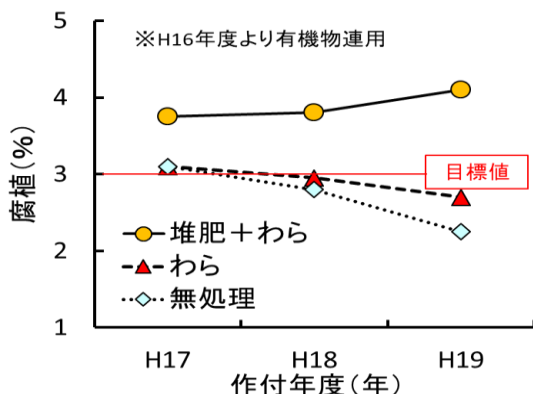


図2 有機物連用による腐植の変化 (福岡農総試)

注)ほ場条件:「大豆-麦」体系ほ場(三潁郡大木町)

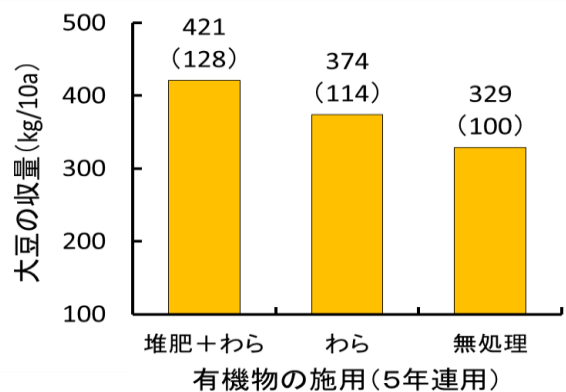


図3 有機物連用による大豆の収量 (福岡農総試)

注)ほ場条件:「大豆-麦」体系ほ場(三潁郡大木町)

■麦わらすき込みの手順とポイント

【水稻作前の場合】

- ① 麦わらを15cm以上の「長めにカット」し、ほ場一面、均一に散布する。
→ 代かき時での麦わらの浮き上がりを減らすため
- ② 麦わらすき込み開始後3年間は、基肥は窒素成分で2～2.5kg/10a程度を増やす。
→ 麦わら分解促進のため
- ③ 耕うん（荒おこし）は、早めに、通常より深く耕す。
- ④ 荒代かきは、トラクターの尾輪跡に水がたまる程度の極浅水（ベタかき）で行う。
- ⑤ 移植後15日、25日に水の入れかえ（強制落水）を行い、ガス抜きをする。その後は、間断かん水、中干しを行う。
→ 麦わらが分解される際、ガスが発生して、水稻の初期生育に影響を与えることがあるため

【大豆作前の場合】

- ① 播種ロールの回転に支障がないように麦わらを「細かくカット」し、ほ場一面、均一に散布する（特に、枕部分など）。
- ② 麦わらすき込み開始後3年間は基肥は窒素成分で2～2.5kg/10a程度を増やす。
→ 麦わら分解促進のため
- ③ プラウ耕（スタブルカルチ等）や、深めのロータリ耕により、土壤に混和する。
- ④ 耕起時の砕土、播種後の鎮圧をしっかりと行う
→ 出芽率を高めるため

■麦わらすき込みによる雑草発生の抑制

麦わらを焼却すると、水田雑草の発生本数が増加します！

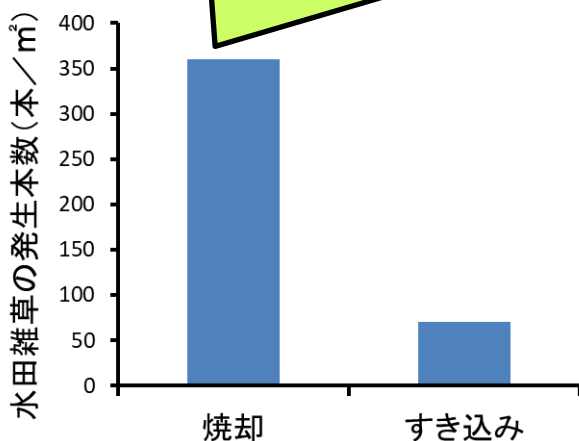


図4 麦わらの処理方法の違いが水田雑草の発生本数に及ぼす影響(秀島ら 2016)

《水稻の生育》

麦わらのすき込みで分けつが抑制されるが、**出穂後の登熟向上により増収する傾向**



わら焼却は、もったいない！